

令和1・2年度 複合構造委員会 第11回幹事会 議事録

日 時：2021年（令和3年）3月5日（金）14:00～16:10

場 所：オンライン

出席者：下村委員長，松本（高）副委員長，大久保幹事長，~~大山~~幹事，川端幹事，北根幹事，
~~斉藤（成）~~幹事，齋藤（隆）幹事，櫻庭幹事，塩畑幹事，平幹事，中村幹事，仁平幹事，
橋本幹事，牧幹事，溝江幹事，皆田幹事，岡崎事務局

配布資料：

- 幹 11-0 令和1・2年度複合構造委員会第11回幹事会議事次第（案）
- 幹 11-1 令和1・2年度複合構造委員会第10回幹事会議事録（案）
- 幹 11-2 令和1・2年度複合構造委員会第4回委員会議事録（案）
- 幹 11-3 令和2年度委員会予算執行状況
- 幹 11-4 令和3年度重点研究課題について
- 幹 11-5 R3全国大会研究討論会企画について
- 幹 11-6 R3全国大会共通セッションについて
- 幹 11-7-1 第14回複合・合成構造の活用に関するシンポジウム
- 幹 11-7-2 第12回複合・合成構造の活用に関するシンポジウム HP
- 幹 11-7-3 第12回複合・合成構造の活用に関するシンポジウム申込書
- 幹 11-7-4 第14回複合・合成構造の活用に関するシンポジウム会告案
- 幹 11-8 土木学会論文集 A1 特集号：複合構造
- 幹 11-9 複合構造の継続教育
- 幹 11-10-1 出版関連報告
- 幹 11-10-2 オンデマンド販売について
- 幹 11-11 複合構造委員会小委員会一覧
- 幹 11-12 （欠 番）
- 幹 11-13 （欠 番）
- 幹 11-14 H216 複合構造物の構造検査と性能評価に関する研究小委員会
- 幹 11-15 H218 FRP 複合構造の設計・維持管理に関する調査研究小委員会
- 幹 11-16 H219 床版取替における既設合成桁橋の設計・施工技術に関する研究小委員会
- 幹 11-17 （欠 番）

議事内容：

1. 委員長挨拶

幹事会の開会にあたり，下村委員長より挨拶がなされた。

✓ コロナ禍でありながら活発に活動できた。幹事の皆様に感謝している。

2. 複合構造委員会第10回幹事会議事録(案)確認（幹 11-1）

大久保幹事長より，前回幹事会の議事録案の確認がなされ、以下の修正を行うことでした。

✓ p.2, 6., 1行目 「11月13日に実際された」→「11月13日に実施された」

- ✓ p.3, 12., 1 行目 「情報発信す（行事参加者）」→「情報発信数（行事参加者）」

3. 複合構造委員会第4回委員会議事録(案)確認（幹 11-2）

櫻庭幹事より、前回委員会の議事録案の確認がなされ、以下の修正を行うこととなった。

- ✓ p.1, 1.日時 「令和2年」→「令和3年」
- ✓ p.4, (16), H217, 1 行目 「H217 小委員会」→「H214 小委員会」
- ✓ p.5, (17), H217, 2 行目 「大きい場合の製接合方法」→「大きい場合の接合方法」

4. 令和2年度予算執行状況（幹 11-3）

大久保幹事長より報告がなされた。

- ✓ 拡充支援金を来年度に繰り越す予定であるが、それでも今年度予算は35万円残る見込み。
- ✓ 委員会活動に使用するテキストなど購入したいものがあれば連絡して欲しい。

5. 令和3年度重点研究課題について（幹 11-4）

齋藤幹事より報告がなされた。

- ✓ 企画WGで立案した3案（300年プロジェクト、3Dプリンタ、緊急時仮橋）の中から、当委員会として最もふさわしいであろう研究課題として、300年プロジェクト案を選択し、応募した。
- ✓ 3月中には結果が届く見込み。

6. 令和3年度第76回全国大会・研究討論会企画について（幹 11-5）

平幹事より報告がなされた。

- ✓ 大久保幹事長からの依頼を受け、H152 プレハブ・プレキャスト工法有効利用に関する調査研究小委員会で企画を検討し、「プレハブ・プレキャスト工法で創られる未来の社会インフラ像とその課題」というタイトルで応募することとした。
- ✓ 連絡者を選任するため、過去の連絡者を調べることとなった。

7. 令和3年度第76回全国大会・共通セッションについて（幹 11-6）

大久保幹事長より報告がなされた。

- ✓ 共通セッションの応募は済ませた。
- ✓ 2021年4月23日に開催される共通セッションの調整会議には皆田幹事が出席する予定。

8. 第14回複合・合成構造の活用に関するシンポジウム（幹 11-7-1～4）

仁平幹事より報告がなされた。

- ✓ 今回は建築学会の主催で、開催日は2021年11月25, 26日を予定。オンラインで開催する予定。
- ✓ 学会誌4月号に会告を掲載することとしているが、学生が卒業する前に2021年度も開催する旨を周知するため、複合構造委員会のホームページで先行会告する予定である。
- ✓ 先行会告に際しては、参加費が未決定であること、申込の開始が4月以降となることを明記することとなった。

9. 土木学会論文集A1特集号：複合構造（幹 11-8）

橋本幹事より報告がなされた。

- ✓ 第 8 巻の発刊に向けて着実に作業を進めているが、展望論文の原稿が未受領である。執筆者に引き続き催促していく。
- ✓ 第 4 期を終えるため、次期の委員構成を検討中であり、新任委員に内諾を取り始めた。
- ✓ 併せて、H001 シンポ委員会の推薦 WG メンバーの検討も行っている。任期を終えた H005 特集号委員会の委員をスライドする方向で考えているが、そもそも推薦が必要なのかといった意見もある。今後、推薦の要否について H005 の見解を取りまとめ、幹事会で議論することとなった。
- ✓ H005 の委員構成案、H001 の推薦 WG メンバー案は次年度の第 1 回幹事会に提示する。

10. 複合構造の継続教育（幹 11-9）

溝江幹事より報告がなされた。

- ✓ 3 月 17 日に小委員会を開催し、各 WG（セミナー、e-ラーニング）の検討の進捗状況と次年度以降の予定を確認することとしている。
- ✓ セミナーWG では講義形式のセミナーの開催を検討している。これに対し、「複合構造セミナー」は講演会形式であるイメージが定着したため、講義形式とする場合にはセミナー名称を変えたほうがよいのではとの意見が出された。
- ✓ 第 1 期を終えるため、体制の見直しを予定している。第 1 回幹事会で報告する。

11. 出版関係報告（幹 11-10-1, 2）

平幹事より報告がなされた。

- ✓ シリーズ、レポートともに売り上げ好調。
- ✓ 複合構造標準示方書 原則編・設計編のオンデマンド販売が出版委員会で承認された。H101 示方書小委員会の意向も確認し、CD 版のみ販売することとした（印刷版は簡易製本であっても高額）。価格は現状の製本版と同じ（ただし、現状制限している印刷は可能とする）。

12. 小委員会報告審議事項（幹 11-11～16）

（H101）複合構造標準示方書小委員会

特になし。

（H215）複合構造におけるコンクリートの収縮・クリープの影響に関する研究小委員会

特になし。

（H216）複合構造物の構造検査と性能評価に関する研究小委員会（幹 11-14）

松本副委員長より活動報告がなされた。

- ✓ 報告書を執筆中。11 月に講習会開催を予定。通読を 6 月頃に依頼する予定。

（H218）FRP 複合構造の設計・維持管理に関する調査研究小委員会（幹 11-15）

橋本幹事より活動報告がなされた。

- ✓ 1/28 に第 1 回小委員会を開催した。第 2 回を 5 月頃に開催する予定。新たに 2 名の委員が追加された。

(H219) 床版取替における既設合成桁橋の設計・施工技術に関する研究小委員会 (幹 11-16)

大久保幹事長より活動報告がなされた。

- ✓ 1/29 に小委員会を開催した。次回は 3/26 に開催する予定。
- ✓ 報告書を 3 月末に完成させる予定。通読を 4 月頃に依頼する予定。講習会は 8 月頃に開催する予定。
- ✓ 通読担当は、中村幹事を取りまとめとして、川端幹事、塩畑幹事となった。

(H220) グリーングレーハイブリッドインフラの評価に関する研究小委員会

川端幹事より活動報告がなされた。

- ✓ 新たに 2 名の委員が追加された。

13. 新規小委員会の立上げ検討について

大久保幹事長より、新規小委員会立ち上げの検討要請があった。

- ✓ 前回の委員会でも指摘されたとおり、活動中の小委員会が少なくなっている。2021 年度には、さらに 2 つの小委員会が活動を終了する予定である。次期の幹事会で小委員会新設の検討を進めていただきたい。
- ✓ 本件に対し、松本副委員長から、親委員会委員にアンケートを取るという案が示された。

14. その他

- ✓ 平幹事より、2 月 9 日に行われた H214&H217 合同講習会について、申込者が 82 名であり、同時聴講者数は最大 72 名であったとの報告があった。
- ✓ 大久保幹事長より、今期の最終幹事会を終えるにあたり、2 年間の幹事会活動への協力の御礼があった。

15. 副委員長挨拶

松本副委員長より、閉会の挨拶があった。

- ✓ コロナによって活動方法の変更を余儀なくされ、大変な 1 年間であった。お疲れさまでした。
- ✓ 次期も 1 年間はあまり変わらない状況であろう。運営方法について考えていきたい。

以 上

(記録：溝江 慶久)